

PAM通信 コラム

2009年1月発行

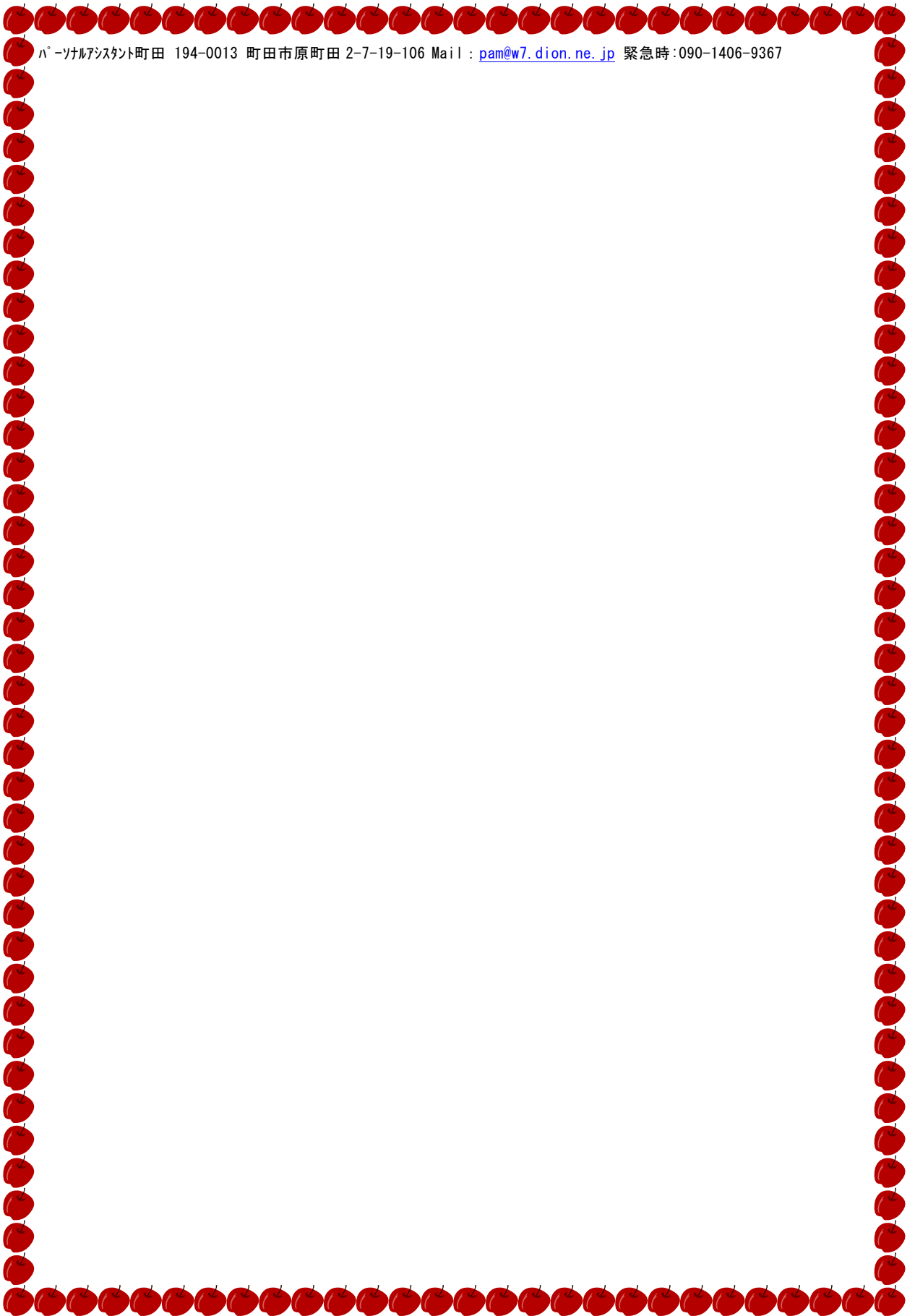
<第22回>タイトル：新年早々

1月1日の夜に高熱が出て、翌日に救急診療を行っている町田市民病院に行きました。救急の待合室はとても込んでいて、正月から病気になる不運な人が意外に多いものだと思います。鼻の奥の粘膜を採取する検査を受けた後しばらく待っていると、診察室のドアを開けた医者が「Tさんインフルエンザです、薬を出しておくので様子を見てください」と待合室にいる私に向かって叫びました。インフルエンザと聞いた待合室の人たちにざわめきが起き、そして私も一抹の恐怖と罪悪感にも似た感情を体験しました。そして、家に戻ってから、症状が出た前後に会った人たちにインフルエンザへの注意喚起の連絡を入れました。

鳥インフルエンザや新型インフルエンザの脅威の情報や、抗インフルエンザウイルス薬のタミフルとの因果関係が疑われる幻覚や異常行動により、死亡事故が発生している情報をマスメディアから漠然と得ていたもので、自分に現れたインフルエンザ症状の軽さや、症状の治まる速さに戸惑いすら感じていました。これは不安と好奇心を持ちながら服用したタミフルが副作用もなく良く効いた結果なののでしょうか？今回の診断で、私は初めてインフルエンザに感染発症したと思いました。しかし、思い出してみると今回と似た症状の風邪は何度も体験したことがあり、たぶん過去の体験もインフルエンザだったのだと思います。だとすると、普段私は薬を飲まないで、過去のインフルエンザを薬なしで治していたこととなります。あまり自信がないと思っていた自分の免疫力や自然治癒力を見直しました。

マスメディアが伝える情報では、高齢者や障害者、幼児などの体力の弱い人たちは、新型インフルエンザのパンデミック（感染が急速に拡がり大流行する状態）では致死率が高いと言われていています。たぶん自分も・・・？と思っていたのですが、今回のインフルエンザ体験や過去の体験から自分は大丈夫では？と思い、インフルエンザについて少し詳しく調べて見ました。毎年冬に流行するインフルエンザは普通に体力のある人なら薬なしでも通常一週間ほどで完治する病でした。しかし、新型インフルエンザは感染経路により作られる基礎免疫を誰も持たず、タミフルのようなウイルスの増殖を抑える薬も発生以後でないと作れません。さらに、新型インフルエンザに変化する可能性のある現在の鳥インフルエンザは強い毒性を持つ高病原性ウイルスなので、新型インフルエンザも強い毒性を持つ可能性があることが危惧されます、しかし、過去のデータを見ると高病原性ウイルスは人に感染しないのではないかとの説もあることが救いです。どうやら季節性のインフルエンザと新型インフルエンザを混同し、過剰に不安になることも安易に安心することも正しくないようです。

どちらにしても、現在私たちができるのはウイルスの毒性と戦える基礎体力をつけておくことかもしれません。ダイエットよりも！



ハッピーソナルアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : pam@w7.dion.ne.jp 緊急時:090-1406-9367